

## 平成21年度第3回英語学教育FD/IT活用研究委員会（記録）

I. 日時：平成21年10月24日（土）14:00から17:00まで

II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者：山本涼一委員長、田中副委員長、小林委員、井端事務局長、森下、恩田

### IV. 検討事項

#### 1. 本日の検討について

これまで検討してきた次の①～③の資料に基づき、「私立大学情報教育協会平成21年度サイバー・キャンパス・コンソーシアム分野共通英語学士力(案)」に纏める作業を中心に行った。

①「分野共通学士力」

②「分野共通学士力の到達度、能力判定、客観的測定の方向性」

③「分野共通学士力を達成するためのコア・カリキュラム」

・纏めるにあたって、下記の点がポイントとなった。

①A4用紙2枚以内に纏める必要があり、従来の資料ではA4用紙4ページとなっていたので、大幅に圧縮する。

②記載内容を「私立大学情報教育協会平成21年度サイバー・キャンパス・コンソーシアム分野共通英語会学士力(案)」のフォーマットに合わせ編集する。その際に、コア・カリキュラムで議論した内容を「コア・カリキュラムのイメージ」とし、簡潔にする。

③記載する内容を分野共通英語に限定し、それ以外の部分を可能な限り削除する。

④到達度は教授（評価）する側の視点で、まとめる。

⑤測定方法としては、可能な限り教授側と学生側のいずれからも達成度を認識できる方法とする。

・資料：1. 平成21年度第3回英語学教育FD/IT活用研究委員会次第

2. 委員会出席表

3. 平成21年度第2回英語学教育FD/IT活用研究委員会記録

4. 分野共通英語の学士力（最終案）（資料①）

5. 分野共通英語の学士力の到達度、能力判定、客観的測定の方向性（最終案）（資料②）

6. 分野共通英語の学士力「学士力」を達成するためのコア・カリキュラムのイメージ（最終案）（資料③）

7. 英語学士力（案）山本委員長作成（案）（資料④）

#### 2. 議事内容

##### 学部共通英語学士力の変更詳細部分

委員長作成の「私立大学情報教育協会平成21年度サイバー・キャンパス・コンソーシアム分野共通英語運営委員会学士力(案)」に沿った形式によって作成された英語学士力(案)が提案され、簡潔化に向けた議論に入った。

1. 「英語の基本技能、基本語彙、基本文法および言語・文化の知識を深める」

高大接続における「英語Ⅰ」および「英語Ⅱ」の到達目標を意識して、大学における分野共通英語の英語を読み書く能力を育成する授業の概略を示した。測定方法に関しては、客観テストおよびCan doリストで確認することとした。

2. 「対話を通してほぼ自由に情報・意見などの交換ができ、自分の考え、意見などを表現することができる」

高大接続における「オーラルコミュニケーションⅠ」および「オーラルコミュニケーションⅡ」の到達目標を意識して、大学における分野共通英語の英語を聴き話す能力を育成する授業の概略を示した。測定方法に関しては、客観テストや各大学の多様なテスト、学習ポートフォリオで確認することとした。

**3.** 「英語を通じて多文化・異文化を理解する」

異文化コミュニケーション能力を育成する授業の概略を示した。測定方法に関しては、知識はレポートにより、コミュニケーション技能はディスカッションやディベートなどの観察により測定し、最終的にポートフォリオで確認することとした。

**4.** 「専門分野に必須の英語語彙・表現を身につける」

このパートが一番大きな議論となった。以前から議論があったように、今回の委員会でも分野共通英語の学士力を策定する際に、各専門分野（アカデミックエリア）の範疇まで定義することは不可能であろうという結論に達した。したがって、この項目に関してはアカデミック・ボキャブラリーとして定義されている語彙の修得に留め、「専門分野の英語文献や講義を理解でき、自らの考えや主張を纏め、発表できる」という文言で纏めた。

- ・ 今回の委員会では以前より議論されてきた「英語の知識と理解」「英語によるコミュニケーション」「専門分野の情報・知識の理解」についてはある程度まとめることができた。また、「学習する態度と志向」に関しては、他文化理解と異文化理解」の項目に含めた。
- ・ 11月26日に今回の委員会案をCCC会員に送付して、意見聴取を行うこととなった。
- ・ 次回の委員会（11月3日）では、CCC会員の意見を反映させた分野共通英語学士力の最終案を作成することとなった。